

ガラスリサイクルで環境保全に貢献する

かぶしがいいしゃ おおはら
株式会社 大原ガラスリサイクル
岩倉工場

〒482-0017 岩倉市北島町中野田36
TEL: 0587-66-6451
http://ohara-glass-recycle.com



■会社概要

1946(昭和21)年、名古屋市で創業したガラス瓶やガラスのリサイクル会社です。戦後、焼野原の中、現在の社長の祖父が資源やガラス瓶類を回収していたのが始まりです。

現在は、使用済みのガラスを再びガラスの材料にして、製瓶メーカーなどに納品しています。また、その他再生資源の選別なども行っています。

1975(昭和50)年、岩倉工場を整備しました。



「カレット」とは使用済みのガラス瓶などを細かくフレック状にしたガラス片のことです。昨今、「3R(リデュース、リユース、リサイクル)」という言葉がよく使われ、環境に対する意識が高まっていますが、80年近く前からガラスのリサイクル事業に取り組んできた会社が岩倉市にあります。

愛知県内のガラス瓶は、ほとんどここに集合！

通常、ガラスはけい砂・ソーダ灰・石灰石などを原料とし、これらを1500℃に熱して作られます。しかし、実は溶けにくく、エネルギー効率も良くありません。一方、ガラスになったものを材料にすると1200℃で溶けるため、エネルギーの節約にもなり、値段も安くガラス瓶をつくることができます。その材料が「カレット」です。

愛知県内の自治体から出されるガラス瓶の約90%が、無色・茶色・それ以外の3種に色分けされ、材料としてここに集まります。さらに中部圏や関東・関西からも回収します。それらを4cm以下のフレック状に加工し、主に地元の硝子会社にガラス瓶などの材料として納入します。

世界一のカレットの純度

カレットは純度が非常に重要であ

り、異物をいかに除去するかがポイントになります。紙ラベルは剥離する機械を使い、鉄は磁石で吸着し、陶器類はカメラで自動識別してエアノズルで吹き飛ばします。こうした不純物除去技術の中には国内初のものもあり、機械を開発し特許を取得したものもあります。その結果、ここで作られるカレットの純度は99.999%レベルで世界トップクラスの純度です。

工場内は独自のプラントを考案し、キュービック状の立体を巧みに利用した構造となっています。一日の生産量約350トンにものぼるカレットが、屋外のストックヤードにうす高く積み上げられます。

ガラスが持つ力

一般的に軽さや利便性を重視する傾向があり、ガラス瓶の需要は以前に比べれば減少しています。しかし、内容物の品質維持が必要な場合はガラス瓶が利用されます。例えば、化粧品、薬品、調味料、日本酒、ワイン、ウイスキーなどには今後も使われるでしょう。さらに、環境負荷を低減する意味で軽量化されたガラス瓶なども市場に出てきていたり、環境面からリターナブル瓶などとして利用されることも増えています。ガラスが持つ魅力が見直されています。

「ガラス瓶を復権するのが私の夢」大原社長の言葉は、現代において、何が大切かを問いかける重い言葉に聞こえました。効率や便利さだけではないガラスに魅せられた大人の夢が詰まっている会社です。